早島の花莚事業に貢献した矢吹貫一郎氏を顕彰するために大正十三年四月に築造された頌徳碑。題字は篆書体で、犬養毅が揮毫している。

頌徳碑

大正十三年一月有東宮立妃之典推恩四海賞賓有功於世者備中矢吹君以致力民産授以緑綬章人皆榮之早嶋花莚組合早嶋商工會相議勒石傳其功於後人以為世範徴予文予謂古人於治國之道必急於民之産業産業興而民心和上下安輯國家富強之基立焉民産之不可忽如此君之有此榮不亦宜乎乃授筆記之日君名貫一郎家於備中早嶋夙有志於生民産業明治辛卯穀價昂騰民大苦君與同人設早嶋物産株式會社織花莚以授業於民民頼之後會社有故而廢君痛惜之與同人継承其業益留心花莚精良所發明不少所織花莚販出於海外聲價大揚又應朝鮮總督府嘱擇朝鮮莞草以織莚莚太美又以野草織莚其術廣傳云君今年年六十為岡山縣花莚同業組合會議員及評議員為日本花莚聯合會議員為早嶋花莚組合長為早嶋商工會頭凡致力民産數十年如一日及郷黨公共事業亦莫所不要心衆望殊重岡山縣知事授以功勞章遂荷今日之榮蓋資於國家富強其功之大可知矣

正三位勲一等犬養毅篆額

大正十三年四月　　東備　山本　憲撰

東京　三宅喜代太　書

随神門改築記念として、寄付金奉納総代の氏名を刻している。

原清次郎以下 13 名の総代と、当時社司であった太田忠二氏の氏名が見える。この碑には設置年代が刻されていないが、随神門を改築したのは昭和 10 年～ 11 年である。

鹿島神社改築記念として、宮司、総代、施工者の氏名を刻している。

鹿島神社は、屋根破損その他老朽化により、平成 12 年 5 月に解体され、5 月 13 日新社殿を搬入、設置。同 14 日、本殿遷座祭を執行した。

由緒板

神社の由緒や縁起を参拝者に知らせるために立てられる。板や銅板等で作られる。

平成 11 年 12 月に設置した由緒板

絵馬

絵馬は馬を描いた絵である。それを馬形絵ともいうが、単に馬を描いただけでは絵馬にはならない。馬形絵が絵馬であるためには、それを神に奉納するという信仰的裏付けが必要となる。

日本書紀や祝詞などでは、神々に馬を献ずることは、神宝や神服を神に捧げる事と同様に扱われている。

奈良時代には雨乞いや晴天を祈るために生きた馬を神社に奉納していたが、時代を経るに従って土馬や木馬に、そして板立馬、板絵馬と徐々にその形が変化していった。

板絵馬でも初めは馬の絵が描かれていたものが、願いに合わせた絵柄が描かれるようになってきたという説が一般的である。

神社には奉納された絵馬や額などを掲げる絵馬殿があるが、無い場合は拝殿等に掲げられている。

当社の絵馬は、拝殿に掲げられており、当時の文化を今に伝えている。

また、昭和十五年九月神社昇格検分時と、秋祭前の煤払い時に内務省係官が来社、検分して貴重と判断した絵馬を「御神寶」として木札を付けた。

大原女の図【御神寶】

「文政三年（1820）二月吉日　京都　高畑氏酉生男」と刻されている。

京都の大原では古くから薪、炭、野菜、花などを京の街へ売りに行くことが多く、その売りに行く人たちが「大原女」と呼ばれていた。

大原女の衣装は、御所染めの帯に絹ふさの腰紐、紺の木綿に白い脚絆をつけて、手拭いをかぶり売り物を頭に乗せていた。

相撲番付①

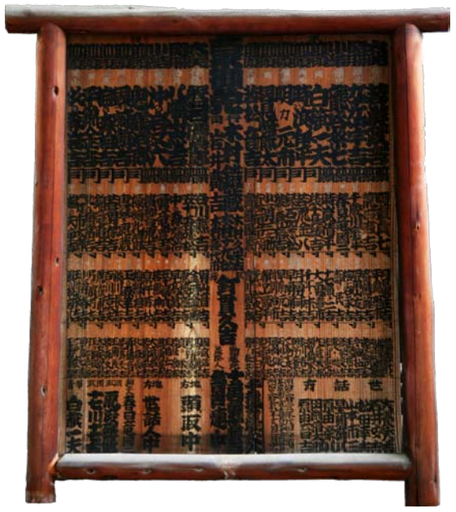
明治二十五年二月二日に勧進相撲開催と記されている。

勧進相撲の「勧進」とは仏教用語で「人に善根功徳を勧誘し、策進する」という意味である。

勧進相撲の目的は、神社・寺・橋などを建てる際に資金を集めるための募金活動であったが、見物料の徴収がされるようになって、力士にも高度な技術を要求されるようになり、素人力士から専業力士へと特化していった。

相撲番付②

明治三十一年茶屋町寒稽古、明治三十二年二月中旬に勧進相撲開催と記されている。



芝居絵（大江山）

安政六年（1859）四月に奉納されている。

大江山は京都府丹後半島の付け根に位置する連山であり、酒呑童子伝説で知られる。

酒呑童子は、大江山、または近江国の伊吹山に住んでいたとされる鬼の頭領（盗賊であったとも）である。

室町時代の物語を集めた『御伽草子』などによると、酒呑童子の姿は、顔は薄赤く、髪は短くて乱れ、背丈が六m以上で角が五本、目が十五個もあったといわれる。

本拠とした大江山では龍宮のような御殿に棲み、数多くの鬼たちを部下にしていたという。